

農協だより

JAくしろおおた



●表紙／組合員親睦旅行 鹿児島県 桜島にて

目次	J Aトピックス	2
	女性部通信	10
	欧州視察研修前半報告	11
	農協法公布記念日にあたっての組合員・役職員へのメッセージ	16
	J Aグループ通信	17
	営農ホットライン	18
	J Aインフォメーション	19
	みんなの広場・編集後記	20

2019 **11**
No.24

JA 釧路太田農業協同組合

■発行：厚岸郡厚岸町太田5の通り19番地1 TEL.0153-52-7151
■発行日：令和元年11月1日 ■編集：金融課 ■印刷所：(有)厚岸印刷



←JA釧路太田オフィシャルウェブサイト
www.ja-kushirooota.or.jp/

ja 釧路太田





宮崎県 鵜戸神社にて

JA釧路太田 組合員親睦旅行

南国情緒豊かな宮崎県と「西郷どん」ゆかりの地
鹿児島県を巡りうまかもん探しの4日間

令和元年10月15日(火)～18日(金)の3泊4日で、組合員旅行に行ってきました。今回は、男性4名・女性7名総勢11名の参加とちょっと少ないでしたが、楽しい旅行となりました。



宮崎県 ANAホリデイインリゾート



青島の朝日

「ANAホリデイインリゾート宮崎」に着し、宮崎の炭火焼き鶏などの美味しい料理に舌鼓を打ち、「美肌の湯」とも言われている温泉に浸かり飛行機の長旅の疲れを癒しました。

**1
日目**

釧路空港、10時25分発の飛行機に乗り、羽田空港経由で宮崎空港に16時25分に到着後、バスに乗り宮崎県の青島温泉に向かいました。この時間でも宮崎は、まだまだ明るく車窓からは、読売ジャイアンツがキャンプを行うサンマリンスタジアム宮崎を見ることが出来ました。



鶴戸神宮を参拝



飢肥城



坂元のくろす「壺畑」

2 日目

ホテルを出発後、縁結び、安産祈願などに訪れる参拝者が多い、海を見下ろす洞窟の中に本殿がある鶴戸神宮を参拝しました。鶴戸神社では、パワースポットとして知られており、本殿前には崖があり、岩にある窪みの周りに縄がかけられており、この岩の中に石をなげ入れる「運玉」が有名なので、運試しをしてきました。男性は左手、女性は右手で投げ入れるのですが、岩までかなり遠いのでみなさんかなり苦戦しましたが、見事に入った方もいました!!

九州の小京都と呼ばれる飢肥は、飢肥藩・伊東氏の城下町として栄え、群郭式の平山城である『飢肥城』周辺を散策しました。飢肥城跡の一角をしめる松尾の丸では、当時のトイレや蒸し風呂など見学してきました。資料館では、飢肥藩ゆかりの品々（甲冑・刀剣・武具など）を展示されていました。

昼食後は、壺づくり純米黒酢の歴史や製法について学べる情報展示施設である『坂元のくろず情報館』を訪れ、担当者の説明を聞きながら壺畑を見学したり、二百年続いた製法を受け継ぎ製造されている坂元のくろずを、試飲したり黒酢の入ったソフトクリームを堪能しました。「壺畑」の壺は現在5万2千本あまりあるそうです。壺酢を『くろす（黒酢）』と命名したのは、この坂本醸造さんなんですよ!

その後は、桜島の人気スポットでもある、大正溶岩原に作られた『有村溶岩展望所』から、鹿児島県の代名詞でもある桜島南岳を見学しました。一面に広がる溶岩原の上に根を張るクロマツや、足もとには火山灰がさくさんあるのが印象的でした。錦江湾も一望でき、普段の見慣れた横長の桜島とは違った円錐型の山に、2つの山が並ぶ複合火山・桜島は、見る場所によって姿が違うことに驚きました。



桜島

桜島の学校は、通学時噴火等に備えてヘルメットの着用が義務づけとなっており、バスから見る生徒達は、みんなヘルメットを着用していました。火山灰によって、地元の方の車の屋根は、一面灰色になっていました。

見学した後は、桜島港から24時間運航のカーフェリー「桜島フェリー」に揺られ、桜島の噴煙を眺めながら、約15分間ほどで鹿児島港に上陸し、2日目の宿泊先である鹿児島市内にあるホテルへ到着しました。

市内にある飲食店では鹿児島で有名な黒豚・きびなごの刺身・イモ焼酎など豪華な料理を堪能しました。

3 日目

8時15分にホテルを出発して、日本を代表する大名庭園で『島津家別邸「仙巖園」』に向かいました。桜島を望む雄大な庭園で、世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成資産となっている尚古集成館も見学し、南九州の歴史と文化を学びました。

その後、幕末から明治維新に活躍した西郷隆盛や大久保利通などの出身地にある『鹿児島市維新ふるさと館』で、近代日本の原動力となった鹿児島市の歴史や先人たちの偉業などを、映像・ジオラマ・ロボットなどハイテク技術を使



島津家別邸「仙巖園」



知覧特攻平和会館



知覧武家屋敷群

い、楽しく分かりやすく展示されていました。

農家レストラン「たわわ」でランチバイキングの後、第二次世界大戦末期の沖縄戦において特攻という人類史上類のない作戦で、爆装した飛行機もろとも敵艦に体当たり攻撃をした陸軍特別攻撃隊員の遺品や関係資料を展示している『知覧特攻平和会館』を見学しました。二度と帰ることのない「必死」の出撃に臨んで念じたことは、再びこの国に平和と繁栄が甦ることであつたと痛感いたしました。特効隊員の中に、厚岸町出身の方がいた事に驚きました。

その後、江戸の雰囲気伝える町並み、石柱の門や美しい庭園が点在する「麓」が貴重な町並みとして残っている『知覧武家屋敷群』を散策しました。薩摩半島の南に位置し、別名「薩摩の小京都」とも言われる美しい武家町で、平成30年放送の大河ドラマ「西郷どん」のロケ地になったところでもありました。ここでは、ちよつとしたハブニング?もありました。

バスは一路、砂蒸し温泉で有名な、鹿児島県の指宿温泉にある「指宿シーサイドホテル」に向け運行し、16時過ぎにホテルに到着しました。

砂蒸し温泉は、美容と健康に効果があると立証され体の芯から温めて、ダイエット効果とデトックス効果があるという事で、みんなで体験してきました。思っていたより、砂が熱くて重く汗がジワーと出てくるのが分かりました。みなさん効果はあつたのでしょうか?

300年もの歴史がある指宿自慢の砂蒸し温泉で、心も体もリフレッシュでき、3日目の疲れを癒すことができました。



西郷隆盛像

4
日目

ホテルを出
発し、火山活



池田湖「イッシー」

動によって形成された九州最大のカルデラ湖で、指宿市の天然記念物に指定されている大うなぎが数多く生息し、謎の生物「イッシー」が棲むという『池田湖』を散策しました。

その後、鹿児島名物のさつま揚げとかるかん饅頭の製造工場である『鹿児島かるかん工場』を見学し、両手に持ちきれないほどのお土産を買いバスに乗り込みました。

バレル・バーレープラハ&GENでは、麹菌について勉強しました。ここで作られている『河内菌(種麹)』は、日本で製造されている本格焼酎の約8割に使用されているそうです。麹を主役とした商品が数多くあり、牛に食べさせるえさもありました。その後、昼食を頂き鹿児島空港へ向かいました。バスは鹿児島空港へ到着し、14時20分発の飛行機へ搭乗し、九州最西端の鹿児島県をあとにしました。羽田空港を経由し、釧路空港に19時35分に無事到着して、バスで帰路につきました。

今回の組合員旅行は、4日間とも天気恵まれ、楽しい旅行となりました。

旅行に参加された組合員の皆さま大変お疲れさまでした。来年も楽しいツアーを企画したいと思っておりますので、たくさんの方々のご参加をお待ちしております。





第10回 あつけし産業感謝祭開催

ブラックアウトによる

中止から1年

令和元年9月22日(日)に第10回あつけし産業感謝祭が、真龍岸壁にある厚岸漁協荷捌き所で開催されました。

昨年は、震災によるブラックアウトなどの影響により、中止を決定しましたが、今年は好天にも恵まれ盛大に開催されました。

厚岸町商工会・厚岸漁協・釧路太田農協の3者で構成している厚岸

地域産業振興協議会が主催となり、町内の特産品の販売や地元食材などを使った飲食ブースも数多く出展されており、たくさんの人であふれておりました。



当JAからはふれあい農園で収穫したジャガイモやトウモロコシ、極みるくやアイスなどの乳製品、牛肉などを提供しましたが、来場者にも大好評でありました。

今年は秋の味覚の『さんま』が不漁で、つまり取りも中止になったためか、来場者数は少なかったようですが、ステージイベントや子供あさり掘り体験などには、たくさんの子供たちが参加していました。



札幌ドール作
元コンサドーレ大森

また、STVの朝

のニュース番組のパーソナリティーであり、元コンサドーレ札幌の選手でもある大森健作氏を招き、トークショーと子供

向けサッカー教室も開催され大いに盛り上がり

ました。最後には初企画で来場者全員によるビンゴ大会も開催され、盛会のうちに終了されました。

近年にない収量確保!

デントコーンサイレージ調整終了

令和元年9月20日(金)に町内でデントコーンを栽培する16戸の農家の収量調査を行ないました。

普及センターをはじめホクレンやパイオニア・雪印種苗など関係者12名で、各農家で1圃場の収量調査を行いました。

今年は、6戸の農家でシカの食害対策のために、電気柵を張り巡らせたためか、鹿による食害は少なかったが、近隣町村での熊による乳牛被害も出ており、ドローンによる熊の食害状況についても確認しました。

調査結果としては、例年より積算温度も20.0℃以上高く糊熟後期から黄熟初期がほとんどで、近年にないほど熟期も進み、平均乾物収量は1670 (kg/10a) ほどの結果となりました。

今年は天候にも恵まれ順調に生育し、収穫前には台風による倒伏も心配されましたが、大きな被害を受けることなく、9月26日よりデントコーンサイレージ調整が始まりました。10月4日にも台風18号の接近もありましたが、その時まで

は、ほぼ終了していたので大事には至らず、10月7日をもって16戸・250haほどの収穫作業が無事終了しました。

収量調査通り、今年は例年にならないほどの収量もありバンカーサイロに入りきらない農家もありました。また、電気柵のおかげで周囲の雑草も処理されており、収穫作業の効率も非常によく、来年度は鹿による食害防止と収穫作業効率の向上に、ぜひ鹿柵をJA購買課にご注文下さい。

これをもって、今年の粗飼料収穫は無事終了した結果となり、2番草収穫時には苦戦しましたが、総じて粗飼料収穫については良質なものが確保でき、これらの生乳生産量に期待しているところがあります。

組合員の皆さまをはじめコントラ作業に携わったすべての方々に対し、厚くお礼申し上げます。本当にありがとうございます。

これから、秋の農作業についても安全に配慮され、怪我の無いようにご注意ください。



「1日ホクレン」

ホクレンとの意見交換会

「1日ホクレン」とは、ホクレンが各JAを
周り各部署の事業説明を行ない、生産者やJA
関係者と意見交換をすることを目的に開催され
ております。当JAにおける前回開催は、平成
26年度に行なわれております。

令和元年10月11日(金)にJA会議室にて、ホクレン釧路支所との意見交換会が開催されました。ホクレンからは西野支所長ほか10名の幹部職員が参加され、当JAでは、役員及び幹部職員、青年部・女性部・酪農振興会の組織代表者など19名が参加しました。

西野支所長から開会挨拶をいただき、その後、小澤次長よりホクレンの事業概要を説明いただきました。次に、畜産生産課をはじめとした6課や営農支援室より、事業概況や情勢説明をいただきました。

休憩後、質疑応答や意見交換の中では、事前質問のほか「穀物飼料の輸入先変更」、「生乳の二股出荷問題」、「根釧地区における屠畜問題」、「営農支援室の人材教育強化」などたくさんの方の意見・要望も出され、短い時間ではありましたが有意義な交換会となったと思います。

ホクレンでは令和元年より第13次中期計画の中で、「販売・購買・営農支援室を三位一体とする事業運営」を基本戦略にすることにより、「生産者や会員JAへの最大限の還元を目指す」ということに取組んでおりますので、これからわたしたちJAも多様化する組合員のために、一緒に努力していきたいと考えております。



挨拶をする西野支所長



ホクレンの概要を説明する小澤次長

第17回 北海道総合畜産共進会

9月28日(土)から29日(日)にかけて、北海道ホルスタイン共進会場(安平町早来)にて、第17回北海道総合畜産共進会が開催されました。

全道各地から地区予選を勝ち抜いた431頭が出品され、釧路管内からは44頭が出品されました。当農協からは、内柴栄輔氏が第5部に「IBW マリアン ウィルサー」、橋本隆幸氏がジュニアカップの育成シニアクラスに「サニーウエイ ラステイドアマン」を出品しました。

全道各地区から集まった出品牛は、各生産者の方々の日頃の改良と飼養管理技術の高さからどれもレベルの高い牛ばかりで、1等賞1席に入賞することは出来ませんでした。内柴栄輔氏が1等賞4席、橋本隆幸氏が1等賞5席に入賞し、2頭ともに好成績を残すことが出来ました。

出品に向けた日頃の調教や飼養管理の徹底等、出品者の方々の日々の努力が今回の共進会において好成績を残せたことにつながったと感じます。出品者の方々をはじめ、関係者の皆様大変お疲れ様でした。



内柴栄輔氏「IBW マリアン ウィルサー」



橋本隆幸氏「サニーウエイ ラステイドアマン」

よつ葉乳業(株)根釧工場長杯 パークゴルフ大会



令和元年10月9日(水)9時30分より、
太田農村公園パークゴルフ場にて、よ
つ葉乳業(株)根釧工場長杯パークゴルフ
大会が開催されました。

大会当日は若干強い風が吹いており
ましたが、無事に開催することが出来
ました。

よつ葉乳業からは中谷課長に参加頂
き、総勢31名に参加して頂きました。
プレーの結果は、

男性の部 本庄 俊長さん

女性の部 永堀 遼子さん

が優勝されました。プレー後は昼食を
取りながら大会の表彰式を行い、大い
に盛り上がりました。

よつ葉乳業中谷課長も「15年ぶりに

根釧工場に配属となりまし
たが、当時の懐かしい顔に
お会いすることができまし
たし、地域の方と触れあう
貴重な時間を過ごすことが
出来ました。」と喜んでお
られました。

※優勝賞品については、よ
つ葉乳業様よりご提供頂き
ました。



釧路太田肉牛同志会親睦 パークゴルフ大会



令和元年10
月19日(土)9時
30分より、太
田農村公園パ
ークゴルフ場
にて肉牛同志
会主催による親睦パークゴルフ大会が
開催されました。

大会当日は、曇り空ではありましたが、プレーするにはちょうどいい気温
であり、役員をはじめ、会員や家族の
方々総勢20名が参加され、最後まで楽
しくプレーすることができました。

プレーの結果は、

男性の部 優勝 山吉 辰夫さん

準優勝 永堀 善道さん

3位 西野 光雄さん

女性の部 優勝 小澤 慶さん

準優勝 北村 ヒサさん

3位 山吉 明子さん

が入賞されましたが、非常に僅差によ
るスコアとなりました。

その後、M&M夢工房の焼肉ハウス
で、焼肉を食べながら、会員相互の親
睦が深められた楽しい1日になりました。





「Welcome デイリー運動」 釧路担い手対策推進グループ

令和
元年

学校訪問ツアー

茨城県、栃木県

「Welcome デイリー運動」釧路担い手対策推進グループは釧路管内JA並びに関係機関で構成し、担い手対策をテーマに事業推進しております。今回、当該グループが主催する「令和元年 学校訪問ツアー」については今年度で3回目となり、各JA並びに関係機関の担当者を合わせて11名が参加し、令和元年10月16日から10月19日まで関東圏（茨城、栃木）の農業系大学、高校を合せて13校を訪問しました。

学校への北海道、釧路酪農のPRや進路の現状確認及び意見交換により、進路指導を担当する先生を通じて生徒への情報提供や進路相談への一助を図りながら釧路酪農への人材獲得を目的として、参加者は3班集体となり、当JAは茨城県の大学2校、高校2校を訪問し、生徒の進路を左右する現場の声を聴くことができました。

酪農実習等により北海道十勝との繋がりをもつ学校も多く、北海道酪農への進路について、学校側にとってはそれほど抵抗が無いように感じられました。しかし、酪農を志望する生徒自体も少ないが茨城県内において牧場が少ないことから県外（関東圏）の牧場を志望している状況であり、北海道酪農への関心が低く、道外から人材を獲得する難しさを痛感しました。

進路については生徒自身の意向が重んじられることから、まず第一に北海道、釧路の酪農について生徒に関心を持ってもらう事、またさらには、その進路を後押しする学校側の理解や信頼関係を深めるために、今回の様な学校訪問や定期的なアプローチ及び情報発信など、人材獲得には長い時間をかけた地道な積み重ねが必要と感じました。



秋季視察研修

令和元年10月8日(火)、秋季視察研修と言うことで女性部14名、事務局2名で中標津にある(有)希望農場へ「オートマチックミルクロータリー」を視察しに行ってきました。

その後はトーヨーグランドホテルにて昼食・入浴をとり、美味しいご飯で気持ちも満たされ、入浴でリフレッシュできたことかと思います。

来年度の視察先も今からご意見等お待ちしておりますので、何かありましたら事務局までよろしくお願い致します！





釧路太田集落 欧州視察研修 前半報告

【視察参加者】

○生産者

河村 公貴（団長）
市川 勝美・河村 賢人
齋 藤 高 範・木 原 智 也
福 井 和 彦・小 野 寺 竜 之 介
片 野 登 紀 子・中 山 景 介
中 山 ゆ い

○JA事務局

営農畜産課

金 澤 勝・石 倉 建 太 郎

○関係機関

ホクレン生産畜産部 岩渕主任技師
ホクレン釧路支所 藤田推進役
全農インターナショナル 境 氏
（デンマーク同行）

●今月号（前半）の報告は
デンマーク

デンマークでは普及組織や酪農家、種苗
会社を視察してきました。

平成31年4月2日（火）～4月13日（土）の12日間に
渡って、釧路太田集落主催による欧州海外視察
研修を実施致しました。
今回の視察は、オランダ・フランス・デนม
ーク・ドイツの4カ国を自給飼料の栽培状況、
乳牛のクロスブリード、先進的農業機械、牛乳
乳製品の市場調査等を目的に行って参りました。



感想

木原 智也

クォーター制が廃止以降、生乳価格48円/kgから、一時的に25%下落し現在は46円/kgまで回復している。廃止後4年間で約15%の酪農家が離農した。規模拡大かオーガニック路線に向かい生き残る農家が多い。オーガニックの乳価は54円/kgと高く、全体の生産量の10%を占める程に増え、輸出量も約50%増加している。酪農全体としては未だに競争が激しく離農も多く乳価が安定しない。日本も近い将来こういった方向になるのではないかと感じました。



日本では農業改良普及センターや農業コンサルタント会社に該当すると思われるが、農業に係る経済性や環境・作付等の多岐にわたって指導をする組織。国等からの援助はなく、アドバイス料のみで事業を成立させている。ここではデンマークの農業の概要やクォーター制度について学びました。

「クォーター制度とは」

生乳と乳製品の過剰生産を抑制し、生乳供給量を市場需要量に均衡させることで乳価の高値維持や安定化を図ることを目的として、E.U.の酪農政策の基軸として1984年から実施された制度。





ラース牧場 【コペンハーゲン】



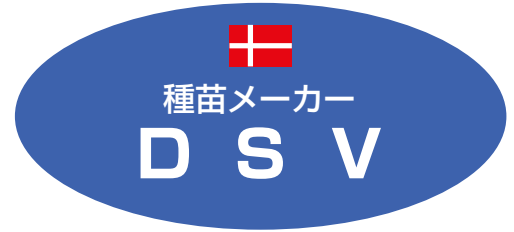
2006年に設立し、搾乳頭数を60頭から900頭へ、1頭の年間乳量は8000kgから14000kgと生産規模拡大し、現在は年間出荷乳量1万1千トンまで増産した。
従業員は15名を雇用し、搾乳形態は24Wパーラーで3回搾乳を実施。

感想 市川 勝 美



規模拡大に伴って従業員の確保が重要ということはこの国でも同様のようで、この牧場では従業員の時給が3,180円と非常に高額であった。また、乳牛の取引価格については初妊牛1頭が18万円と低いことに驚いた。日本の半額以下の乳価であるのに加え、高額な雇用賃や安価な乳牛価格で酪農が成り立っていることは、日本とは経営の本質が大きく異なると感じた。大きな違いとしては、自給飼料を中心とした餌メニューによって餌代を大幅に減少していること、また施設についても日本のような立派な牛舎ばかりではなく比較的単純構造な施設が多いことから施設投資が安いのではないかと感じた。日本のものさしで考えると信じられないが、こちら側の国の当たり前。どちらが良いのかというより、日本もデンマークもそれぞれ事情があってお互い道は険しいが試行錯誤していることを感じた。





感想

小野寺 竜之介

今回、とても楽しみにしていた1つに種子会社の視察があったことです。普段なかなか見られる場所ではないので、どのような流通を経て輸入され手元に届くのか知れるいい機会でした。

デンマークやEUのシェアということもあり、育種においては越冬性やさび病等の改良も重要視されており私達の地域に共通するので気候は似ているのだらうなと思いました。また日本ではまだまだメジャーではない緑肥用の植物もラインアップされており、様々なシチュエーションを想定しているのだと感じました。しかし、私達の地域においては多回刈が難しいことから定着までは至らないのだらうなと思いました。緑肥ですき込み畑のクリーンアップをする事しか考えていなかった麦を混播し播種、そのまま収穫する技術は面白いなと思いました。

種子の生産のイメージとしては大きな区画で大量生産されていると思ったのが、副業で農地を使い470戸の農家の方々が百数十種類の品種を作っている事を知り、確かにリスクの分散にはなるのだらうなと思いました。それ以上に種子農家がこれほどまでにたくさんあるのは歴史と文化の違いだなと日本の酪農の歴史の浅さと外部依存を痛感させられたように感じました。

工場での作業行程はいたってシンプルでしたが、積み上げられた商品や精製前の種子は圧巻でした。もし機会があれば、輸入後の小樽の工場も視察してみたいと思いました。



1912年に設立し、現在ではデンマークの35%のシェアを保有し、ホクレンとも取引している。国内に種苗会社は3社あるが、種の割合は3社共通のブランドとしており、種自体が各社で異なる。DSVについては高収量を重要視した育種に取り組んでいる。







ジェンズペーター ジェッペセン牧場

(親子で2農場経営)
【ホルステブロー】



●牧場1 (親が経営)

搾乳頭数160頭、1頭当たり乳量は自主的に抑えて9700kg/頭。経営者と雇用者2名で経営、オーガニック生乳の出荷農家として、収益性でデンマークの4位以内入る優良経営農家であり、左記のこだわりを持って経営を営んでいる。

- ・乳房炎は薬を使わない。(自然治癒で6〜7日)
- ・季節分娩を採用している。(夏分娩)
- ・化学肥料は使用しない。
- ・放牧をおこなっている。
- ・草地約280haのうち年間約50haの草地更新を実施している。但し除草剤は使用しない。

●牧場2 (息子が経営)

2年前に近隣の2農場を買い取り、さらに1棟新築し酪農を開始した。
購入額は(既設農場2棟、新築1棟・土地・家畜)で3億7800万円で購入。季節分娩、放牧を採用している。



感想 片野 登紀子

この農家は利益を考え自給飼料をいかに食べさせるかをテーマに経営していました。

草地管理に力を入れており、毎年40～50haを更新し、5年間ですべての草地が更新されると聞き驚きました。また、窒素供給のことを考え、白クローバーを大切にしており、刈り取り時の長さまで考えられていました。刈り取りも4週間に1度程度収穫され、日本の酪農の草地管理との違いを感じました。乳価、地価、気候等、酪農を経営する条件は違いますが、あらためて良質な自給飼料を確保するためには、もっと草地や土壌について学び、適切な管理ができるように努めていかなくてはならないと強く思いました。



農協法配布記念日にあたっての 組合員・役職員へのメッセージ

北海道農業協同組合中央会

代表理事会長 飛田 稔 章

本年9月30日、本会は平成27年の農協法改正に伴い法律上の位置付けを連合会に移行しましたが、名称は変更されず、事業としても会員の相談、監査、意見の代表、総合調整が規定されているため、今後も引き続き、中央会が果たすべき基本的な機能であるJAグループの結集軸として、持続可能な北海道農業の確立、農業者の営農と経営の安定、それを支えるJAをサポートして参りますので引き続きご支援、ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

さて、昭和22年11月19日に農業協同組合法（農協法）が公布され、今年で72年を迎えました。戦後の食糧不足の混乱期に、農業者の協同組織の発達を通じ、「農業生産力の増進」と「農業者の経済的社会的地位の向上」を図り、国民経済の発展に寄与することを目的として、農協法が制定され、農協が設立されました。

農協は「農業者による農業者のための組織」であり、協同組合原則に掲げる「自主・自立」「民主的運営」の基本に立ち、相互扶助の精神のもと、幾多の困難な状況を乗り越え、組合員の皆様の営農と生活の安定並びにより良い地域社会の実現を目指し、今日に至っております。

総合事業を展開しながら安全・安心な農畜産物の生産と、豊かな生活に役立つ購買品の供給、地域の豊かな暮らしと経済活動のために寄与する信用事業、総合的な暮らしの保障のための共済事業、健康な日常生活を営むための医療・福祉事業のほか、環境問題や子供の貧困問題などへの取組み等、地域社会に貢献するための様々な社会的取組みも行なわれております。

また、昨年の北海道胆振東部地震のように大規模災害が発生した際には、組合員・JA・連合会等の間における農業機械・発電機等の融通や、被災地への人的・物的支援、被災地農産物の選果受入、協同組合間による募金活動など、組織内・外を問わない助け合いの精神による支援活動・行動によって、被災地域の復旧・復興支援に大きな役割を果たしているところです。

このように協同組合は社会と地域の人々の暮らしのために、永年に亘って多くの分野でその役割を発揮してきているのです。

そのような中、「協同組合の思想と実践」がユネスコ無形文化遺産に登録され、更に昨年4月には、我が国の農協、漁協、生協、労働金庫、森林組合等の協同組合が、協同組合間の連携に

よって力を結集し、地域課題の解決を目的として日本協同組合連携機構（JCA）が発足したところです。

昨年開催した第29回JA北海道大会では、前回大会で設定した将来ビジョンである「北海道550万人と共に創る『力強い農業』と『豊かな魅力ある農村』の実現」を継承し、「農業所得の増大と、多様な担い手の確保・育成」と「次代につなげる協同組合の価値と実践」に向けて、JAグループが一体となって取組むこととしております。

JAに集う組合員、役職員の皆様は、競争ではなく共生の社会を創り出す社会システムのひとつとして世界的に評価され、その価値と役割を高め始めている協同組合の仲間であることを誇りとしながら、対話運動の実践を通じて、信頼と絆を土台にした新たな協同組合の価値創造と、食と農でつながるサポーター550万人づくりによって、協同活動の輪を広げて頂きたいと考えております。

このことが新自由主義経済への対立軸としての協同組合の存在意義を高め、永年に亘り先人が築き上げた地域農業並びに地域社会の基盤をさらに発展させ、持続可能な農業と地域社会へと繋がるものと確信しております。

最後になりますが、JAグループ北海道は、協同組合の理念と精神を事業の拠り所とし、今後とも組合員の皆様が夢と希望を持って営農と生活が続けられる環境を整えること、地域農業とJAの発展に全力でサポートすることをお誓い申し上げ、農協法公布記念日にあたってのメッセージと致します。



JA北海道中央会



北海道農業協同組合中央会は平成27年の農協法改正により、令和元年9月30日をもって法律上の位置付けを、農業協同組合連合会に移行しました。改正法では、名称は変更しないことが認められ、事業としては会員の相談、監査、意見の代表、総合調整が規定されており、法律上の位置付けは変わるものの、中央会が果たすべき基本的な機能は変わらないと認識しております。

組織変更に伴い、9月30日に本会役職員に対して飛田会長より訓示を致しました。訓示の内容については、「JA北海道中央会」のYouTubeチャンネルよりご覧いただけます。

今後も引き続き、JAグループの結集軸として、持続可能な北海道農業の確立、農業者の営農と経営の安定、それを支えるJAをサポートする役割をしっかりと果たして参ります。



JA北海道信連



10月5、6日、アクセスサッポロで開催された、こどものまち「ミニさっぽろ2019」に昨年に続きブース出展しました。「ミニさっぽろ」は、子ども達を対象にした職業体験のイベントであり、JAバンクのブースでは各ブースからの依頼を受けて、給料を用意する仕事を体験してもらいました。

子ども達に仕事の大変さや楽しさ、そして金融の大切さを伝える機会を提供することができました。



JA共済連北海道



JA共済連北海道は、平成20年より地域貢献活動の一環として、交通安全啓発運動を北海道警察本部と連携し「旗の波運動」として取組んでいます。街頭で小旗等を振り、ドライバーに交通安全を呼びかけ、交通事故の撲滅、および交通安全意識の向上を目的に実施しております。

今年度も札幌地区では9月27日に約50名で共済ビル前の街頭で実施しドライバー・歩行者へ交通安全を呼びかけました。



ホクレン



GAP（農業生産工程管理）の推進に向け、ホクレンは、農場評価の演習を盛り込んだ実践研修会を8月26～27日に札幌市内の学校法人・八紘学園北海道農業専門学校を会場に開催しました。参加者は道央圏のJA担当者・連合会職員など約10名で、日本生産者GAP協会の田上隆多事務局長を講師とし、農場評価制度の基本学習や会場となった同校農場にて実際の調査を演習しました。参加者の各組織での今後のGAP推進に期待しています。



JA北海道厚生連



組合員ならびに地域住民の皆様の生命と健康を守るため、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。

紙面をリニューアルし、より読みやすくさらに健康に役立つ医療・健康情報を発信しております。10月発行分にはプレゼント付きアンケートもごさいますので是非応募にもチャレンジしてみてください。



JAグループ北海道の連合会・中央会の活動内容をご紹介します。各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。



冬に向けて早めの対策！ ～ 哺育牛の保温～

哺育牛が寒さを感じる温度は？

哺育牛の適温域は13℃～ 25℃で下臨界温度は9℃になります（表1）。つまり、哺育牛は13℃以下から寒さを感じて、9℃以下になると体温の維持のためエネルギーをより多く使うことになります。（※下臨界温度とは血管収縮により熱放射だけでは代謝維持ができなくなり代謝量が上がり熱生産が増加する温度のこと）

11月の厚岸町の平均気温は3.3℃ですので、牛にとっても寒い時期になります。（表2）冬に向けて早めの寒さ対策を行いましょう。

（表1）乳牛の適温と下臨界温度

	適 温 域	下臨界温度
出 生 時	13～25℃	9℃
1ヶ月 齢	4～20℃	0℃
泌 乳 時	0～20℃	-24℃
乾 乳 時		-14℃

（表2）厚岸町の気温（平年値）

	平均気温(℃)	日最高気温(℃)	日最低気温(℃)
10月	9.7	14.6	4.7
11月	3.3	8.1	-1.7
12月	-2.8	1.6	-7.5

哺育牛を寒さから守るためにできること

①ネックウォーマー&カーフジャケット（写真1）

哺育牛もカーフジャケット等を着用することで、体からの熱放出を防ぎ体力の消耗が少なくなります。ネックウォーマーは、市販されている人間用でも対応可能です。

②すきま風を防ぐ（写真2）

気温はそこまで低くないけど風が吹くと寒く感じると思います。哺育牛も同じで、風は体感気温をぐっと下げます。換気もすごく大切ですが、哺育牛に直接、冷風が当たらないようにペンで囲ったり、すきまを塞ぐことで寒さ対策を行いましょう。

③ペンに屋根や小屋を設置する（写真2）

建物の中では、暖かい空気がどんどん上に逃げてしまいます。これを防ぐため、ペンに屋根（シートやコンパネ）を設置したり、すきま風や寒さから逃げられる小屋を設置している事例もあります。

④敷料をたっぷり敷く（写真3）

冷たいコンクリートや凍結した土は、哺育牛のお腹を冷やし体温を下げる原因となります。敷料をたっぷり敷き、底冷えを防止しましょう。また、糞尿で敷料が濡れると哺育牛濡れて逆効果になりますので、スノコの活用や敷料を交換して乾燥させましょう。



（写真1）子牛も冬はジャケット



（写真2）暖かい空気が溜まる小屋



（写真3）乾いた敷料をたっぷり

路面が凍結する時期になりました。
砂や凍結防止剤などを散布し、転倒を防ぎましょう！

■お問い合わせ先／普及センター東部支所 TEL.0153-65-2021

第8回 理事会報告

令和元年10月21日(月)

報告事項

- 令和元年10月上旬現在の生乳生産状況及び9月末クミカン取引状況について

	当農協	釧路管内	全道
10月上旬	99.3%	100.2%	101.9%
累計	101.0%	100.3%	102.0%

- 組合員の加入及び脱退について

加入	准組合員	1名
脱退	准組合員	2名

- 防衛施設周辺整備事業の入札結果について

議決事項

- 特定指導農家の経営状況について
- 令和元年度 組合員宅一斉訪問の実施(案)について
- 災害対策マニュアル(営農継続)の制定について
- 畜産クラスター事業について
- 新規就農者に対する支援について
- ホクレン対策費について
- 牧場跡地の処理について
- 固定資産の取得について

JAくしおおち

11月
令和元年

行事予定

1 (金)	村山市「ふるさと産業フェア 厚岸物産展」(～4日)	18 (月)	釧路地区酪対全体委員会
3 (日)	文化の日 厚岸町功労者表彰式	19 (火)	第9回 理事会予定 乳牛市場
4 (月)	振替休日	20 (水)	Aコープ特売
6 (水)	外国人技能実習機構(実地検査)(～7日) Aコープ特売	21 (木)	一般市場 村山市歓迎レセプション
	監理団体に対する実地検査	22 (金)	welcomeデー 酪農体験ツアー(～25日)
7 (木)	一般市場 家の光全道大会(女性部)	23 (土)	勤労感謝の日
9 (土)	職員研修旅行(東北方面 ～12日)	25 (月)	農協役員道外視察研修(～28日)
12 (火)	J A北海道大会実践フォーラム(札幌)	27 (水)	Aコープ特売
13 (水)	Aコープ特売	28 (木)	一般市場
14 (木)	組合員宅一斉訪問予定(～16日) 一般市場	29 (金)	育成市場

みんなの広場

コミュニケーション



枯れ葉の季節となりました。

アダモの「♪枯れ葉よ～♪♪枯れ葉よ～♪」
の歌が聞こえて来ます。

牛乳飲んで栄養も水分も補給です。牛さんと家
族に“感謝” (ペンネーム/チロのママ)

先週、極みるくソフトを食べました！おいしく
頂きました。ちらほら紅葉が見られ、秋になって
きてますね。おたよりいつも楽しく読ませてもら
っていますー！ (ペンネーム/F F兄弟)

極みるくのソフトクリーム、来年まで待ち遠し
いです。どの味もおいしいです。

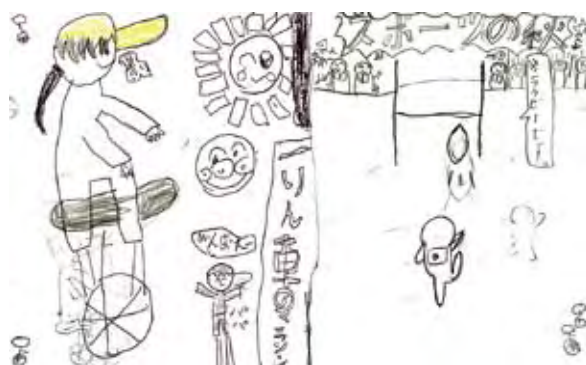
(ペンネーム/もみじ)

気がつけばすっかり木々の葉も秋色に染まり秋
の深まりを感じる季節になりました。年々、一年
が経つのが早く感じますが、これからも心とから
だを健やかに保ちたいものです。秋の夜長、それ
ぞれの楽しみを見つけて楽しみたいですね。

(ペンネーム/チョコたん)

真っ赤な夕陽に木の葉の赤。緑の大地と赤のコ
ントラストがきれいな季節になりましたね。

(ペンネーム/コンサ大好き親父)



11月2日、3日、4日、静岡県へ娘達の一輪
車マラソン大会出場の為、行ってきます。この日
の為に網走や黄金道路、太田大別間、白浜門静間、
標茶河川敷で練習を重ねて来ました。良い結果が
出せる事を期待しています。娘達頑張れ!!

(ペンネーム/一輪車娘の父)

記事・写真・イラストなど

大募集!!

身近で起きた出来事やベストショット写真、JAに対するご意見・ご要望など、読者の皆様
からのご応募お待ちしております。

別紙の応募用紙に氏名・住所・電話番号を記入して、JA釧路太田事務所・Aコープおおた
店・ホクレン太田・尾幌スタンド・酪農支援センターにある応募箱に投函してください。

編集後記

今月も「くしろおおた11月号」を読んでいただきありがとうございます。
すっかり寒くなり、いっきに冬に近づいてきましたね。早めのタイヤ
とワイパーの交換を心がけましょう！

先月、大型台風により多くの被害がありました。これから冬
本番、災害に備えて防寒対策も大切になってきます。しっか
り準備をして冬を迎えましょう！

編集担当/Y.T

